

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム蔵 発寒(せせらぎ)	評価実施年月日	平成22年2月14日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月5日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>一昨年、理念に「地域」という言葉を付け加えた。全く新しい表現ではなく、これまで使ってきた理念を残したいという職員の希望があり、付け加える形になった。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎週月曜日、朝のミーティング時理念を全員で唱和し、共有している。また、実践に向けてカンファレンスなどで話し合いながら取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通して、地域の方々に伝えている。「流しソーメン」「夏祭り」などの行事へのお誘い、参加を通して事業所での利用者の暮らしぶりやグループホームを見学している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常のゴミ出し、散歩時など利用者と共に挨拶は欠かさず、時に講演や道端などで立ち話などし、ご近所との交流を深めている。散歩に出かけると、声をかけていただき、庭で咲いた花をわけてくれる。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>河川の掃除など利用者と一緒に参加し、交流を深めている。老人クラブ、婦人部、すこやか倶楽部、夏の盆踊り大会、秋の文化祭、新年会など多数地域の行事に利用者と一緒に参加し、交流に努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者の相談やグループホームがとういうところであるかなど、地域の方々の暮らしに役立てていただくために、始めて公開日を設けた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>サービス評価の意義や目的を全員に伝えている。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体的な改善計画を立案し、対策や実践につなげるため努力している。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容について報告し、意見をもらうようにしている。</p>	○	議事録は回覧しているが、スタッフも参加したいという希望があり、次年度は交替でスタッフの参加を検討していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市で行う年3回の管理者会議に参加し、札幌市との連携強化を図っている。西区管理者会議で札幌市介護保険課の担当者を招き、情報交換・交流を行った。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修や個々の勉強では理解している職員もいるが、全職員には十分理解されていない。職員研修で理解を深めるという取り組みにあげたが、実践できなかった。</p>	○	次年度の職員研修で取り上げ、職員の理解を深め、必要な方に活用できるように支援していきたい
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>職員研修では開催できなかったが、外部の研修に数名参加し、「高齢者虐待防止関連法」について学んだ。月1回の主任会議では、「虐待拘束防止委員会」も兼ねて開催し、虐待の防止、拘束の早期解除に向けて検討された。</p>	○	次年度の職員研修で取り上げ、グループワークにより、虐待の防止の徹底を図っていきたい
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族などに対応方針を相談している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とのコミュニケーションの中で、「やりたい」「食べたい」などの言葉から買いたいものを買いたい、行きたいところに行ったりしている。家族を通して本人の意見や希望を聞くこともある。運営推進会議に出席していただき、意見を言いやすい環境にしている。意見はできるだけ、運営に反映できるよう努力している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、家族通信を発行し、担当スタッフより近況と暮らしぶりの報告と写真を添付している。また、金銭管理は個人ごとのおこずかい帳を作成し、報告し来訪時押印していただいている。家族通信に退職するスタッフを報告している。家族とのやりとりは「家族連絡ノート」を作成している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を気軽に出来るような問いかけをし、何でも言える雰囲気づくりを心がけている。出された意見や情報、要望などは主任会議やミーティングで話し合い、反映させている。入居歴が長くなると、意見も少なくなってきたので、話しやすい場ということで、食事を交えた家族会も開催した。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会、個別面談を行い、意見を聞くようにしている。また、日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけている。職員研修のあと、ユニット会議で、意見交換している。懇親会を会社負担で年3回実施。職員の意見や提案を話しやすい場づくりに心がけている。運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くよう心がけている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。勤務シフト上も無理のないよう、行事のときは人員を増やすなど工夫している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	別ユニットにいった時も、他の利用者さんにきちんと挨拶や声かけをするように心かけている。今年度より、職員交流が始まったが、時々顔を見せるなど、利用者へのダメージを防ぐようにしている。新しい職員の場合は利用者ひとりひとりにきちんと紹介している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所内では、年間の研修の課題を設定をし、スタッフのケアの向上に努めている。</p> <p>スキルアップのため、外部で行われる研修などにも参加し、学んだ事を報告し、他スタッフにもわかるようにしている。</p> <p>今年度より、人事交流を始め、認知症ケアの向上に努め、目標を設定し、達成できるよう人材育成に努めている。</p>	○	今年度は人材育成に関することに取り組んでいきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>いろいろな勉強会や研修会の参加により、同業者との交流があり、情報交換の場がある。</p> <p>西区管理者会議で、西区のグループホーム全体で合同パイキングがあり、利用者、スタッフ等で数名参加し、情報交換した。西区のグループホームにスタッフが見学にいき、交流した。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩室にはエアコン、事業所全体や各事業所ごとに親睦会を会社負担で実施し、ストレス解消に努めている。</p> <p>今年度、休憩室の分煙に取り組んだが、場所の設定が困難なため、空気洗浄機の設置にとどまった。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は現場に来て、利用者や過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。</p> <p>今年度より、有資格者に手当がつくようになった。新たに資格取得した職員には会社主催の「お祝い会」を開催することになった。</p> <p>資格取得の実務経験がある職員にはスキルアップのため、上級資格取得を勧め、アドバイスを行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。</p> <p>これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、センター方式などを利用しながら、ゆっくり聞くようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	開設当初は、自宅での介護相談もあったが、最近はほとんど入居を前提にした相談なので、グループホーム以外のサービスにつなげるということはなかった。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、レクリエーションに参加してもらっている。 体験入居で本人・家族の納得の上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の話には、視線を合わせ、腰をすえてじっくりと耳を傾け感情を共有するよう心がけている。職員は利用者のできないことを助け、利用者にしてもらえることはどんどん手伝って、日常を共に支え合っている仲間と考えるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子や職員の思いをきめ細やかに家族に伝えそれに対する家族の思いを受け止め、本人にとっての最善のケアを考え支えていくための協力関係を築こうと努めている。	○	家族通信を一方向的に送るだけでなく、家族からの希望、要望を返信してもらうよう今年度は取組んでいきたい。家族会で話すより、書く方が言いやすいのではないかな。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家を離れても心は離れないように、家族と本人の思いが結びつくような働きかけを心がけている。本人の状況をこまめに報告、相談するとともに焼き肉パーティ、クリスマス会などは家族を招いての行事、年賀状(手紙など)をご自身で書いてもらうなど関係が途切れないよう留意している。 電話を希望される方はいつでもできるような環境にある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前からお寺の御詠歌を続けていた方に、グループホームの仲好しさんとスタッフでお寺に行って、御詠歌を聞いてきた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆でできることは多数で協力してもらっている。食器洗いなど互いに協力して毎日行っている。隣同士で楽しくおしゃべりしている。元気がない人に周りの人たちが心配して声かけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、家族会に出席してもらったり、お見舞いに行ったり継続的な付き合いを行っている。一昨年看取りをした家族から、雛人形と五月人形をいただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひと月に一度、総合的なカンファレンスを行い、改善できることは素早く改善できることに努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の方から、昔どんなことをしていたか、好きな物、特技など情報を聞き、スタッフ間の情報を共有し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さい動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者が自分らしく日々暮らせるように、本人、家族の要望を聞き、事業所外の関係者の意見を含めて課題となることをスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。家族を交えて話し合うことがあまりできていない。	○	どのような方法で家族との話し合いの場を設けるか今後検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の進行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。月1回全員の介護計画の見直しを行っている。さらに月1～2名カンファレンスで重点的に検討している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄など身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。介護計画の実行も記録に記載している。	○	朝のミーティングで出された新しいプランについて、その都度介護計画に加えていなかったもので、加えるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	行っていない。	○	今後はこの地域にどんなニーズがあるのか、把握しながら多機能性を考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議などで町内会の方々と意見交換する機会を設けている。避難訓練では消防署の方、地域の方に参加していただいた。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービス、訪問歯科診療、訪問マッサージなどを利用してもらっている。身体状況に応じて、札幌市のおむつサービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力して通院介助を行っている。訪問診療に来てもらうケースもある。入居時に本人、家族と話し合い、受診する医療機関を個別に決めている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>まずは訪問診療の医師に相談できる関係は築かれている。認知症の専門医の受診が必要な場合は診療情報提供書と適切な医療機関を紹介していただいている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護師が1名2ユニット兼務で配置されている。(夜間については電話対応、必要時夜間でも出勤体制にある) 細かな変化も報告し、早めの対応、24時間相談できる体制をとっており、健康管理の支援を行っている。 また、専門科の受診が必要な場合は家族とともに病院受診を行っている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時は本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、時々職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況など聞き、速やかな退院支援に結びつけている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>今年度、対象者はなかったが体制はある。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人の意思を大切にしつつ、家族とよく話し合い、又、主治医とも日頃から連携を密にし、安心して終末期を過ごしていけるようチームワークをよくする努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	フェイスシート、介護添書、診療情報提供書などを提出している。 グループホームでの生活習慣をできるだけ変えないよう、情報提供を十分の行いリロケーションダメージを最低限にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	勉強会やミーティングの折に、個人情報保護法の理解や秘密保持の徹底など職員の意識向上を図っている。 日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	フリープランの時の行きたい場所や誕生日会でのメニューやプレゼントなど本人の希望を聞き、希望にそうように努めている。自分で上手に表現できない方に対しては質問の仕方を変え、反応を出せるようにまた、日常生活の様子などから察知するように支援している。 耳の聞こえない方は筆談で働きかけ、思いを表出できるようにしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	理美容、行事など職員側の決まりや都合を優先していることも少なくない。ただし、必ず本人の意思確認は行い、意思の尊重を重視している。 入浴は毎日入浴できるように、いつも準備している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご家族やご本人が希望される理美容に行っている方もいます。定期的な訪問理美容の場合は自分の好きな髪型が言えるようにカタログのような見本を見て気に入った髪型にしてもらっている。 女性の利用者にマニキュアやお化粧、スカートなどおしゃれをする「おしゃれの日」を設けた。(その日はスタッフもいつもと違う装いをする)		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の今までの生活習慣をなるべく変えず、一人ひとりの嗜好品を理解し、本人の様子や時間を見ながら楽しめるように努めている。 お酒・タバコに関しては、持病の方もいるため主治医と相談し、状況に合わせて楽しめるようにしている。 ビールの好きな利用者は、誕生会やなど行事や町内会行事のときに飲んでいただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握し、時間ごとにトイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できるように、いつも準備している。 女性利用者の入浴介助で男性を嫌がる方は同性介護にしている。入浴拒否の強い方に対しては無理強いせず、日にちをかえたりして楽しんで入浴できるよう心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく、日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は①本人が財布を管理②財布は事務所管理、外出時本人に渡す③事務所管理と大まかに3つにわかれている。利用者や家族の希望や力に応じてお金に関する支援を行っている。 お金がいつでも使えるよう、事務所にはお財布を用意している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の気分や希望に応じて、散歩やドライブに出かけるようにし、気分転換や心身の活性につながるように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ふるさと訪問は行ったことはない。 ダンス&カラオケのお店や北海道開拓記念館など、昔行ったことのある場所や昔のものがたくさん展示してある場所などはとても楽しめた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、年賀状をだすための支援を行っている。 利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる環境にある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけている。特に面会時間等を決めていないのでいつでも来ていただくことができる。スタッフは笑顔とあいさつで対応するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを行っている。 「身体拘束防止」の研修会に出席したり、出席したスタッフから報告を受け全スタッフで共通認識できるよう取り組んでいる。	○	今年度は職員が身体拘束をしないケアを正しく理解、実践できるように、「身体拘束に関する」職員研修を考えていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関はチャイムが鳴るようになっているが、鍵はかけていない。(夜間のみ施錠) 外出を察知した時は、無理に引きとめず、一緒に散歩したりさりげなく声かけをして、自由な暮らしを支えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員一人一人が気を配り、常にどこに誰がいるかを把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	過去に洗剤を飲んだり、せっけんを食べようとする利用者がいたので、特に夜間の保管・管理は徹底し厳重にしている。 利用者の状態を十分把握しながら、厳重に保管するものなど検討している。 洗剤やせっけん・包丁などは見える場所には置かず、収納できるところに置き見えないようにしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒアリハットを記録し、職員に回覧し、共通認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への謝罪と説明・報告を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	今年度平成21年9月に、職員研修会で「緊急対応」の研修会を実施。実技を交えて行った。いざという時に力を発揮できるよう毎年全職員で行っている。	○	年1回ではなく、また、全職員一堂に行わず、各ユニット毎、あるいは各事業所ごとに年に数回初期対応の訓練を行うなど、実施回数、方法を検討していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年1回行っている。今年度は町内会長、家族の方々が参加した。運営推進会議でも地域の方々と避難方法について検討がなされた。家族会でも災害時について、家族の方と検討がなされた。	○	屋根のある避難場所の確認。確認したい家族の方々にお知らせする。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて職員間では検討するが、家族に対して詳細に説明していない。ケアプラン説明時に盛り込んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の血圧・体温測定の実施。食事量・排泄チェック、顔色・表情等に注意し、体調の変化や異変があった場合は速やかに医療スタッフに報告し、指示を仰ぐとともに介護記録には特別欄に色分けして記入し、他スタッフにわかりやすさを心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全利用者の「お薬ファイル」を作成している。職員は薬の目的、副作用についておおよそ理解できている。薬の変更、追加の場合は看護師が業務日誌にその由を記入し、症状の変化など職員にわかりやすく記載している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自力排便の難しい利用者に対するの対応に注意している。繊維質の多い食品や水分量の増加を目指しているが困難な場合もある。現在ではできる限り水分量を多くとるために、飲み物の味を変えるなどの工夫に力を入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。食後の水分補給は積極的に行っている。 職員研修を通して、口腔ケアの重要性を理解し、ケアに生かしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	年1回、地域の栄養士による、専門的なアドバイスを受けている。 食べる量は一人ひとりの状態に合わせ盛り付けをし、副食が進まない利用者には汁物の具を多くしたり、好みの物を配膳したりしている。 また、水分量チェックをし、不足している場合には好みの飲み物で水分確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び家族に同意のもと、職員ともにインフルエンザ予防接種を実施している。 今年度は利用者のみ新型インフルエンザの予防接種も実施した。 ノロウイルスに関しては流行時期前にミーティング等で職員に注意事項を再確認している。 インフルエンザ・ノロウイルス:発生件数 0件		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	1週間に一度買い物に行き、常に新鮮な食材を購入している。もやしや豆腐など日持ちのしないものはその都度購入している。 週に1度の冷蔵庫の整理、清掃など行っている。賞味期限についても厳しくチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に、夏はプランターに花を植え、華やかで親しみやすく、冬は除雪をこまめに行い、周囲の家々にも馴染むように工夫を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の壁や天井などに季節を感じることができる飾りを施し、明るい空間を取り入れるように心がけている。 夜間明るすぎないように足元ランプを使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓いすの他に三人掛けソファ、畳みベンチを置き、気軽に腰掛けられる。食卓いすも食事時以外は自由に座り、利用者同士が自然と隣り合って座り会話されている。 夏はベンチで日向ぼっこをしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、なじみのものや好みものがある。ベッド上からでも好きな動物のカレンダーが目につくところに張り付けたり、のれんをつけたりと、家らしさに近づけるための工夫はしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ換えや温度調節については寒暖計を見ながら職員は常に意識している。 利用者の部屋の掃除の際に換気、温度調節の配慮、気になるにおいなど速やかに対応している。 冬場の乾燥防止に暖房の上に濡れタオルを置いている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや居室の場所がわかりやすいように大きな文字での表記をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に野菜やお花を植え、利用者と共に水やりや収穫を行っている。夏には流しソーメンや夏祭りを行い、季節を感じられるよう活用できている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

事業所として、職員研修の開催、外部研修への参加などスタッフの質の向上を目指し、働きやすい環境を常に意識しています。また、季節ごとに家族を含めた行事、外出の機会も多く、利用者本位の支援に取り組んでいます。特に、力を入れているのは地域との交流で、利用者は町内会の老人クラブに登録し、月1回の定例会に出席したり、女性部の集いに参加したり交流の輪が広がり、「施設の人」ではなく「地域の人」になりつつある。